

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

今年はおこ岩に登るぞ

一湊小学校 六年 岩川 さくら

私は六年生。今年の秋の遠足は、白谷雲水  
峡だ。二年生、四年生のおきに行つたの合  
わせると三回目になる。私たちの学校では、  
白谷雲水峡とヤクスギランドに、交代交代で  
行つてゐる。白谷雲水峡に行くおきは、おこ  
岩が目的地として登つてゐる。皆は楽しみに  
してゐるけれど、私は少し不安がある。

二年生の遠足のおき、私は初めて白谷雲水  
峡に行つた。行く前からおきおき。楽しみだ  
なと思つてゐた。歩き出すと、すぐに小さな  
滝があつた。水がおつと流れていて、お持  
ちいい。あと少しのおきで、もう無理かな  
と思つたけれど、先生が、  
「さくらさん、あと少しだよ。」

と励ましてくれた。だから、何とか登れたけ  
れど、おつてもつかれた。頂上で友達と岩を  
叩くとおこの音のようにポンポン音がした。  
頂上で記念写真を撮るおき、先生が岩の上で

No. 1

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終つたら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましよう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましよう。

（ ）月 日 曜日

「もうちょっと後ろ」  
と言われた。ゆっくり岩が丸くなっている角  
まで下がると、かけが見えてとってもこわか  
った。どんどんこわくなってきた。けれども  
みんなといっしょに記念写真が撮れてうれし  
かった。帰りには、途中で小さな小さな滝の  
ようなものがあった。そこで、水を飲んでみ  
ると、とっても冷たくておいしかった。

四年生の遠足は、二度目の白谷雲水峡。迷  
峠までは行けたので、みんなとお弁当を食べ  
ることはできた。しかし、私はみんなに全然  
追いつけなくて、三・四年生の友達とどんど  
んはなれていった。体力がなくなつて、足が  
重い。だから、保健の先生とゆっくり歩いた。  
太こ岩まで行けなかったのて、みんなと記念  
写真を撮れなかった。とっても残念だった。  
だから、楽しさと悲しさが混ちった不思議な  
遠足だった。私は、もう、太こ岩に登ること  
はできないのかなと思ひこんでしまった。下  
ているときには、少し元気が出てきた。

No. 2

- 3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましよう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましよう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

「再来年は、太こ岩まで登ろうね。」  
と先生に言われ、私は元気に返事をした。  
今年の七月の全校朝会するとき、校長先生が  
「今年の遠足は、白谷雲水峽に行きます。」  
とおっしゃった。私はそのとき、少し不安だ  
つた。それは、四年生のときに登れなかった  
からだ。こんな私を励ましてくださったのが  
担任の先生だった。  
「今年のさくらさんなら、きっとだいじょう  
ぶだよ。今年はいっしょに登るぞ。」

先生の言葉に、太こ岩まで行けるかなあ、と  
不安だった気持ちで、六年生だからがんばら  
なきゃ。という気持ちに変わっていった。

夏休みには、毎日散歩をして体を動かした。  
海や川ではたくさん泳いで、体力がついてき  
た。

一カ月後は、白谷雲水峽に行く遠足だ。私  
は六年生。低学年の子たちがつかれたときに  
は、私が、「もう少しだから、一緒に登ろう。」  
と声をかける側になりたい。

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

